



三杉会とは

昭和57年10月24日に待望の同窓会館が竣工し、建部大社の御神木である三本杉にちなんで「三杉会館」と命名された。

また、平成5年6月13日の臨時総会において、「瀬田工高同窓会」は、瀬田工業高等学校同窓会「三杉会」と改称し、会報も「三杉会会報」となった。

三杉会事務局

〒520-2132 滋賀県大津市神領三丁目18番1号

瀬田工業高等学校内

E-mail setatech-h.dousou@pref-shiga.ed.jp

瀬田工業高等学校

TEL (077) 545-2510 (学校代表)

FAX (077) 543-4872 (学校代表)

会員数 (令和7年4月現在) 24,988名

同窓会員の皆様



瀬田工業高等学校
同窓会三杉会会長

奥村 功
(昭54工電)

同窓会員の皆様、お元気でお過ごしのこととお慶び申し上げます。

平素は、同窓会三杉会の活動に格別のご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、皆様の中で高校時代に電車通学されていた方は、石山駅北側に大きな工場があったことを覚えていらっしゃるでしょうか。何うところによると、現在は工場がなくなり整地され、新たにマンションが建設されるとのこと。

また、2028年4月には、滋賀県立高等専門学校が野洲市に開校予定です。県内の工業高校は3校(瀬田工業高校・彦根工業高校・八幡工業高校)ありますが、今後の学校編成がどのようになるのか、OB会長としても気がかりです。

先日、令和6年度卒業式に出席いたしました。卒業証書授与式では、各学科クラスの総代が校長先生から卒業証書を受け取っていました。

た。卒業式の様子もコロナ禍以前とは大きく異なり、式次第にも時代の変化が見られました。全日制239名、定時制8名の若き同窓会員が新たに加わりました。希望に満ち溢れ、新たな門出を迎えられた卒業生の皆様、誠におめでとうございます。

先日、PTAの野村副会長から、昔は体育祭などで友人たちと「天八魂(天下の瀬田工、八つの魂)」を応援歌として歌っていたが、現在では歌われておらず、生徒に尋ねても知らない者が多く、寂しく感じるとのお話がありました。そして、「天八魂」を応援歌としてぜひ復活させたいと熱く語っておられました。

昔を思い起こすと、高校入学後の歓迎会が膳所公園であり、学科クラス縦割りです。1年2年3年生が一緒に校歌や応援歌「天八魂」を先輩に教わり、体育祭の応援合戦などで歌ったことが思い出されます。大声で「天八魂」を歌った日々が懐かしき思い出されました。いつ頃から歌われなくなったのでしょうか。PTAの野村副会長は、生徒たちのために復活に向けて取り組みたいとのことですので、同窓会の集まりなどで昔を思い出して皆で歌えたら素晴らしいですね。

末筆ながら、母校の益々の発展と会員の皆様のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。ご挨拶といたします。

天八魂

(天下の瀬田工、八つの魂)

一、ここは江州か 滋賀の街か 滋賀のまちなら工業瀬田工

二、工業瀬田工の学生さんは 度胸ひとつで 男伊達

三、度胸ひとつで 工業の道を 歩んで行きます 学生服で

四、学生服なら 瀬田工の育ち ぽろは おいらの旗印

五、ぽろはまどえど 心は錦 どんなことにも 恐れはせぬぞ

六、どんなことにも 恐れはせぬが 可愛いあの子にや 叶わせぬ

七、可愛いあの子は いつでも捨てる 工業の為なら 命までも

八、命捨てても その名は残る 工業瀬田工の その名は残る

校歌

一、天雲なびく 比良の嶺遙か 望みに燃ゆる 若きいのちよ 涯なく高き 真理を求め 精しく深き 業究めつつ 朝夕つどふ 学びの窓は 瀬田工高 吾等の光

二、永劫澄みわたる 湖うけて 流れさやけき 瀬田川近く 喜び憂い 互に分かれ たづさへ励む 自治のまどゐに 見よ咲き薫る 学びの園は 瀬田工高 吾等の誇

三、

ご挨拶



校長
横尾 浩
(昭59工電)

本校同窓会三杉会員の皆様方におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。平素は、本校の教育活動ならびに同窓会活動に格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

今年度も瀬田工業高等学校の校長を拝命いたしました。微力ではございますが、諸先輩方が築き上げてこられた瀬田工業高等学校の伝統をしっかり受け継ぐとともに、社会の変化に適切に対応しながら、全力で学校経営に努めていく所存でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

ご挨拶



(定時制)副校長
小梶 和久

瀬田工業高等学校同窓会三杉会の会員の皆様方におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。平素は、本校教育活動ならびに同窓会活動に格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。瀬田工業高等学校定時制の副校長として、2年目を迎えることになりました。今年度も校務運営に尽力する所存でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本校定時制課程は長い歴史の中で、瀬田高等

し上げます。

前年度より学校教育活動がコロナ以前の状況に戻っております。いろいろな感染症が流行している様子が見受けられますが、感染症対策をしっかりと行いながら、それぞれの行事をすすめて参ります。ホームカミングデーも設定しております。機会がありましたら、その折母校を訪れていただけたらと思います。

BYOD (個人購入) による一人一台端末が導入され、各学年ともパソコンを持っており、授業では積極的にパソコンを利用した授業が実施されております。教員側も教材の作成や利用について研修を進めており、授業参観をしておりまして、最新の情報等を取り入れ、教科書だけの情報でない高度な授業になつております。生徒自身も情報機器を使用することが多いと思いますが、情報選択という意味でも学習が進んでいると見受けられます。

令和4年度から新学習指導要領が実施され

学校として多くの卒業生を県内外の産業界に送り出して参りました。平成26年4月の高校再編により、瀬田工業高等学校定時制として新たな歩みをはじめ、毎年、着実に卒業生を送り出しております。令和7年3月には8名の卒業生が4年間の課程を終え、巣立っていきました。

さて、昨年12月末時点での全国の高校生全体の就職内定率は77.3%と報告されております。

また、工業高校の卒業生に関しては昨年度3月末時点の内定率が99.2%に達しており各企業からの高い需要が伺えます。このような高い内定率の背景には、県内、国内の人手不足が大きく影響しています。労働力の確保が急務となっている中で、実践的な技術や知識を持つ専門高校の卒業生は、即戦力として多くの企業から求められています。特に工業分野では、技術革新や製造業の発展に伴い、高度な技術を持つ人材の需要が増加しています。また、国際的な経済

ています。本年度で4年目、すべての学年で新しい観点別評価が実施されております。「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性」の三つの柱で評価され、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善が求められております。各教員がよりよい授業のため積極的に授業改善に取り組んでおります。

令和3年度、本校各工業科の実習施設・設備が更新され最新の機器が導入されております。それぞれの機器を動作させるための研修を重ね、実習教材を研究し、教員は実習に取り組んでおります。実習経費が大変高額になることもありますが、教育委員会のご理解もあり費用負担をいただいているところでございます。これらの機器をしっかりと活用しながら、社会の担い手として社会の変化に対応できる人材の育成に努力して参りたいと思います。また、県内の教員が研修できる機会も設けております。機

の変動や貿易摩擦、さらにはグローバルなサプライチェーンの再編なども専門高校生の就職機会にも反映されているようです。

このような状況を踏まえ、本校を含め全国の専門高校ではカリキュラムの見直しや産学連携、地域企業との連携強化など、時代の変化に対応した教育改革を進めています。卒業生が多様な分野で活躍できる基盤を築くため、これからますますデジタル技術やAIの活用、持続可能な社会を支える新しい技術の習得に向けた産業教育が必要となつてきます。工業高校の就職状況は国内外の情勢に大きく左右されるものの、実践的な技術を持つ卒業生への需要は引き続き高いと思います。県内外を問わずグローバルな社会で活躍できる人材を育成するための教育環境、職場環境づくりに今年度も微力ながら努力していく所存でございます。三杉会員の皆様、今後ともよろしくお願いいたします。

会がございましたら、新しい機器をぜひご覧いただけたらと思っております。

クラブ活動におきましても、各クラブが令和6年度も近畿大会や全国大会で入賞等好成績を収めております。今年度も各部活動において目標を設定し、目標が達成できるよう毎日積極的に部活動に取り組んでおります。全国大会や近畿大会などへの出場を期待しております。一人ひとりの生徒が、それぞれ得意とする分野で活躍し、充実した高校生活を送ってほしいと願っております。

母校、瀬田工業高等学校の今後ますますの発展に向け、三杉会会員の皆様と教職員がひとつになつて邁進していきたく思っております。引き続き、本校へのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

結びに、本校同窓会三杉会の益々の発展と会員の皆様のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

湖西支部 三杉会理事 西村和典君 叙勲を受章

本年度春の叙勲で昭43全電の西村和典君が叙勲の榮譽を受章されました。

旭日双光章を受章、国家や公共に対して功労があり顕著な功績を挙げた人に授与されます。私達瀬田工の卒業生の誇りになり、喜びとなりました。心からおめでとございます。

昭43全電 西村 博

支部だより

栗東支部



たかが同窓 されど同窓 令和6年度支部総会を終えて

高田 英一（昭39全機）

令和6年11月17日三杉会栗東支部総会を開催。支部総会（第4回）の開催である。

新生栗東支部総会第1回は、平成24年11月17日である。第2回は平成27年、第3回は平成30年、と会則に規定された3年毎の開催がされた。第1回、第3回ともども支部活性化のフリーズのもと、平成26年には比叡山飯室谷の不動堂で藤波大阿闍梨の千日回峰行についての「法話の拝受」を皮切りに、平成28年会員バーベキュー会と母校文化祭見学の「親睦の集い」、活動はいつも「親睦と活性」である。平成29年には市内企業の（株）イシダ滋賀事業所を訪問。同窓生の活躍の「リアリティ」に触れた。平成30年第3回支部総会を終え、支部の更なる活性化に向けて役員会を重ねた。喧喧囂囂・喧々譁々、結局のところ「親睦」に尽きる結論。親睦を以って令和元年11月に「瀬田川クルーズ」その足で、突如の母校訪問。突然の押しかけにかかわらず手厚い案内に感謝。母校創立80周年を契機に、いよいよ支部活動を本格化と思いきや、世の中コロナ禍。世相は一変、自粛・自粛で、活動は停止。例に漏れず「たかが同窓」会、支部活動なんか…。時は3年経過…。

お隣の守山支部、草津支部も解散声明。「たかが同窓」3年間のマシン、エレクトロ、ケミカルの「サワリ」の学びだけなのか…。時として、感受性旺盛期。それぞれの以後の人生に紛れもなく「基礎」を培った筈。マシン、エレクトロ、ケミカルを基礎とした「生活信条」が養われた「同窓」の共通項である。母校が戦中の混乱期に創出された。80年有余が経過、戦後の復興期に一度に働いた、工業社会の先端を走った創成期。平成のバブル迄の旺盛期。バブル崩壊後のデジ

タル創成期。今や、サイバネとAI期。インダストリアルという「共通項」で社会の「モノづくり」を支えた自負が有る。たかが同窓でなく、「されど同窓」の意味が見いだされる。同窓そのものに、「力」がある訳でなく、「絆」として生きる…。同窓会活動は、力にするものでなく「絆」を大切にしていくなかで今になって悟る。時に、80歳に到達したこの春。突然のTEL「頼むから、同窓（級）会を開いて呉れ」。死んでしまふがなあ…。いくつになってもなつかしい、何年でも出会うなくても、特に日常かわりなくも、同じく学（窓）んだ共通点が、其処にある。同窓・同窓会の「されど」である。本草稿の本来の支部総会の報告に戻ります。

参加者は、総勢18名。少ないわりに、活性化に向けての喧々譁々の議論に始まり、本会則の見直しをとの結びで締めさせて頂く。本総会に学校より、横尾浩校長と押谷朋成三杉会事務局の両先生の来賓としてのご出席を賜り、温かい激励を授かり幸甚でした。引き続きの懇親会、有意義な「絆」で有ったとの報告で稿を閉じます。

京都支部



会報にひさびさ投稿

大塚 次夫（昭31全機）

新型コロナウイルス感染が第5類になって久しいが、未だ感染対策には皆さん夫々気を付けてお過ごしのことと思います。

年一回の京都支部総会、懇親会の開催もコロナ感染から、その心配が払拭するまではと今に至っています。未だ、何処の会合、食会も自粛のムードで、我が京都支部も同様に開会できずにおりました。その後、副支部長 駒井義弘氏（昭34全電）幹事、山中渡氏（昭45工機）両名が逝去。又、2年前に会計、山中信和氏（昭34全電）が体調不良で、支部会の開催にはめどが立っていない状態です。京都支部は、他の支部と違い日も浅く（平成26年に発足）京都在住の会員も少なく若い世代の幹事に交代、再発足と思う今日この頃であります。

今回（令和7年度）会報原稿を事務局より依頼され、支部活動がないままに、どの様な内容を会報誌に掲載していただくかと、頭を悩ました。

過去に京都支部から会報誌掲載の投稿を、自分の保管している古い会報誌（平成15年第48号（令和6年度第66号）を振り返り内容確認しました。

令和3年度は私と佐野一雄（昭33全機）令和4年度山中信和（昭34全電）令和5年度高谷都四朗（昭41年全機）の3方の掲載。

（会報誌48号）平成18年4月現在三杉会会員数は、18377名（66号）令和6年4月現在24781名と6404人と増加となっている。多くの後輩の加入が見られ、頼もしく思います。

又、令和6年度第66号では、平田大樹君の日本ハムファイターズ入団の記事を拝見「滋賀県

学年同窓会

卒業還暦の同窓会 開催

近藤 一男（昭40全化）

三杉会会員の皆様こんにちは。

40Cは昭和40年（1965年）に男子36名女子5名の41名が卒業しました。

そして、今年令和7年1月21日（火）に区切りの昭和100年目の同窓会を実施し、15名が参加しました。（卒業還暦の同窓会です）

卒業後、コロナの影響のため2年間の中断を除いて毎年実施しています。

当初は担任の先生3年間継続して、望月先生担任に参加していただき、健在の間は毎年出席していただきました。

その後は、化学工業科の先生にも声を掛けて複数の先生に参加していただいた時もありました。（藤木先生・前田先生・一本先生）

母校に近い料理屋さんで同窓会を開催していることより、令和2年には母校を訪問して化学工業科の実習棟の見学を先生に案内して

は琵琶湖ではなく、平田と言われる選手になりたい」との発言。誠に力強さを感じました。今や世界の野球選手大谷翔平、米国野球界でアジア人初の殿堂入りしたイチロー選手に近づくよう頑張ってくださいと思います。

わが母校の創立も平成21年（70周年）令和元年（80周年）令和11年には（90周年）4年後は私、92歳を迎えます。

「最近人生は100歳時代」と言われますが、残念ながら大病を患った自分には望みの高い事と言わざるを得ません。

母校はこれからますますの発展と三杉会の皆様のご健勝ご多幸を祈念申し上げます。

☆最後に貴重な紙面をお借りしまして京都支部会員の皆様にはお詫びを申し上げます。年度内には支部会存続等をお願い致しますのでご理解宜しくお願い致します。

ただきました。

卒業後、55年ぶりの変貌著しい母校訪問を実現することができました。

この間参加人数は減少していますが、ほぼほぼ参加者は固定化されて変動がありませんでしたが、卒業58年目を迎えた令和5年より（もう一度会いたい）をテーマに取り組んでおり、久しく出会えていない同窓生の消息を確認しています。

卒業59年目には卒業以来一度も会えない同窓生を探し出して出席してもらうことが出来ました。

毎年の開催にもかかわらず話には尽きることなく、内容は病氣と付き合っている話は定番で、仕事をしている話、さらに新規活動にチャレンジする等話題は尽きません。まさに、旧交歓談を重ねています。

今回は誰に会えるやらを楽しみにしてお開きしました。



部活動 活動状況

剣道部

古豪から再び強豪へ

剣道部監督 八田

賢（平 20 工化）

令和五年、やっと母校である瀬田工業高校に赴任した。教員になり十二年が経



も、教員として、部活動の指導者として、経験を積んできた。すべては学生時代に成し遂げられなかった母校の悲願である「インターハイ団体出場」の夢を叶えるため、そしてある一人の剣友との約束を守るためである。

四月、胸を高鳴らせて武道場に向かった。開いた口が塞がらなくなった。一切手入れがされていないカビだらけの武道場。部員は二名しかおらず、防具が乱雑に置かれホコリまみれ。部室には道着袴が床に放置され、その横にゴキブリの死骸が二匹転がっていた。胸の高鳴りがその日のうちに止まったことは言うまでもない。

しかし、心に燃える炎は消えなかった。新入部員も四名入り、団体戦も組めるようになった。礼法や道着袴のたたみ方など、基礎中の基礎から教え、それに答え

るように生徒も少しずつ顔つきが変わっていった。

令和六年度、在校生がコツコツ積み上げたものが認知されはじめ、新入部員がいつきに九名入部した。そして私が赴任し活動してからちょうど一年、ようやく県大会でベスト 8 に入賞し十数年振りのシード権を得ることができた。

「あの時の瀬田工業が帰ってきたようだね。」かつての剣道部を知る先生方や他校の保護者の方々からお声がけ頂くようになった。でもまだ何も成し遂げていない。ようやくスタートラインにたっただけである。先輩方のつないできた伝統をより良いものにするために、今後も生徒と共に精進していきたい。

「不動智」「ぶどうち」という言葉がある。本校剣道部の部訓で、この言葉を今も大切にしながら、現在は「達心志」「しんしをたつする」という新たな部訓を掲げ活動をしている。

静岡県での教職員時代、同世代の教員として、剣友として、共に鎧を削ってきた故・榛葉達也先生の氏名を勝手ではあるが一字頂いた部訓である。彼は若くして病に侵されながらも最後まで病と闘い、自分自身や家族、生徒たちと向き合い続け沢山のの人に惜しまれながら生涯を全うした。生前、他校ではあるが同じ工業高校という似た境遇で指導をしていた彼と色々な話をした。「私立や進学校が

幅を利かせている昨今の高校剣道という時代に我々で風穴をあけましょう。そして、どのような境遇でも自分たちの努力次第で夢は叶うのだということを子供たちに教えてあげましょう。工業高校の剣道部を日本一にしましょう」

【心に願ったことに志を持ち取り組めば、必ずその目標は達成する】

いつか天国にいる彼にその約束が届くようなチームになるよう、これからも取り組んでいきたい。



ボート部

今年度開催のわたSHIGA輝く
国スポ・障スポに伺けての近況報告

ボート部顧問 辻 正人(昭62工電)



レースに向かう柴原選手



表彰後の柴原選手

去る令和7年3月21日から23日に開催された全国高等学校ローイング選手権大会において、本校からシングルスカル種目(一人乗りボート)に出場した柴原琢臣選手(機械科)が8位入賞の好成績を収めた。同種目での入賞は、令和3年度の宮口優希選手(立命館大学在学中)以来で3年ぶりの入賞となった。柴原選手は、令和7年度に開催される「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」において少年選手の中軸的存在として期待されている選手である。中学時代には、全国中

谷大学へ進学)とのクルーで、ダブルスカル種目(2人乗りボート)において近畿大会優勝、インターハイ4位の好成績を収めている。1年時の実績が好成績であったとしても次年度に更に上位の成績が残せる保証は全くないのが勝負の世界である。技術的にも体力的にも発展途上である「自覚」と目指す結果から逆算した「行動」を期待している選手である。更に近況報告として、令和6年度からは教職員の定期人事異動により本校に保健体育の教員として栗原誠和氏を迎え

学校ローイング選手権においてシングルスカル種目で優勝の実績があり、入学時より頭角を現し、3年生の八木颯一選手(今春より龍

た。それを期に監督を交替、指導体制を一新し、現在に至っている。栗原氏は、群馬県出身で高校・大学・社会人と日本代表の実績があるトップアスリートで、2025年度開催の滋賀国スポの強化を担って滋賀県の教員として本校へ赴任された。令和6年度は、インターハイではシングルスカルで北川裕基選手(今春より日本大学へ進学)の準優勝、国スポでは滋賀選抜のダブルスカルを準優勝へと導く手腕を発揮、自身のトップアスリートとしての経験を生かし、令和の時代に求められる指導を工夫しながら日々奮闘されているところである。

さて、私は歴代顧問の先生方が人事異動により10年前後で交替される中、監督として26年間、最前線で選手の指導に関わらせて頂いた(顧問としては28年)。競選手の勇姿をご覧いただける機会をお約束し、同時に今後も「世界を目指す未来のボート部員」を御紹介いただけることを切にお願いし、今回の御報告とさせていただきます。

山岳部

山岳部顧問のひとりごと

山岳部顧問 小西 義幸

現在、滋賀県の高体連登山専門部には10校が名を連ねている。本校は昭和34年

ら十数年の間は全国大会に何度も出場を果たす強豪校だったようだ。私は本校へ

度に加盟し、仮に創部と加盟が同一年度とすれば今年67年目を迎える。加盟校の中では2番目に古い伝統校である。驚くことに創部か



赴任以来顧問を務め今年で 9 年目になるが、その間は全国大会への出場を目指すも一度も成しえていない。しかし、近畿大会には 4 回出場させていた。近年は登山専門部の新たな分野であるスポーツクライミング（略称 SC）で活躍する部員も現れ、昨年度は 1 年生 2 名が全国高校選抜 SC 選手権大会への出場を果たし、団体戦で 11 位の成績を収めた。今年度はさらに実力をつけ入賞を目指している。また、開催県となる国民スポーツ大会での活躍も期待される。

SC 専用の壁を校内に持つ高校は全国的にもほとんどなく、日頃選手は地元のクライミングジムに通って練習をしている。オリンピック正式種目採用や国際大会での日本人選手の活躍により注目を集め、競技人口は年々増加している。今後はジムで育った選手が山岳部に籍を置いて活動することが多くなると予想される。本校山岳部もいわゆる「山登り」としての山岳部と、「SC」としての山岳部の二重構造を成す年が多くなるだろう。年配の山岳部 OB の方には不思議に感じられるかもしれないが、時代の流れに逆らわず、登山と SC を両立させた山岳部であればと思う。

とは言え、山岳部と言えばやはり「登山」であり、山登りが活動の主体であることは今も昔も変わらない。平日は体力トレーニングと天気図や救急法などの知識習得に精を出し、安全登山のための下準備をしている。休日は実際に山に出かけ、安全登山を実践する。ひたすらにこれを繰り返す。単に山に登っているだけと思われがちだが、実は山岳部の活動は奥が深い。ときどきニュースで報道されるような遭難事故を起こさないためには、様々な知識や技術が必要であり、ここまでやれば完璧という線はない。山岳部の存在意義とは何か、と問われれば、決して遭難しない登山者をひとりでも多く世に送り出すこと、と信じている。

こんな風を書くとは何やら堅苦しいイメージを持たれそうだが、山に登ることを楽しむことこそ最大の目的であり、そ

の最たるものが夏山合宿だ。3 泊 4 日テント泊で北アルプスや南アルプスを味わう。重い荷物を背負って登る辛さに至んでいた部員の顔が、ふと絶景に出会い思

わず顔がニヤけたとき、心の中でガッツポーズが出る。そんな瞬間があるから山岳部顧問はやめられない。

定時制

「頑張る定時制高校！」

本校部活動の現状

定時制副校長 小梶 和久

本校定時制の部活動は、全日制高校と比べて特有の役割を担っています。

生徒の中には、年齢・背景・生活スタイルの異なる者が多く、部活動を通じて交流を深めることで、相互理解や協調性を養い、人間関係の形成に役立っています。

また、働きながら夕方から通学するという生活を送る中で、孤立しがちな生徒にとって、部活動は「安心して過ごせる場」となり、精神的な支えにもなっています。

学習に苦手意識を持っている生徒も、部活動での活動を通して自信をつけたり、目標に向かって努力する経験を得たりしています。さらに、部活動を通じて、ルールを守ることや自分の役割を果たすことの大切さを学び、規律や責任感の育成にもつながっています。

活動時間については、授業が夕方から夜にかけて行われるため、部活動にあてられる時間が限られており、十分な練習

や活動が難しい場合があります。また、在校生の数が少ないこともあり、活動自体が成立しないことも多く、特にチーム競技については、県内定時制高校との合同チームで大会に出場するのが現状です。

本校定時制の運動部には、「軟式野球」「バドミントン」「バスケットボール」「サッカー」があります。文化部としては「ものづくり部」が設置されています。生徒数の少なさや指導者不足のため、設置されている部の数は限られているのが現状です。

定時制高校における部活動は、教育的にも社会的にも重要な役割を果たしており、限られた条件の中でも生徒の成長を支える貴重な場となっています。

今年度は、第 61 回近畿高等学校定時制通信制課程体育大会が滋賀県で開催されます。今後も、より柔軟な運営や地域との協力を通じて、活動の継続が可能となることを願っています。

令和6年度 各種資格取得者数一覧

資格名	危険物取扱者 甲種	危険物取扱者 乙種1類	危険物取扱者 乙種2類	危険物取扱者 乙種3類	危険物取扱者 乙種4類	危険物取扱者 乙種5類	危険物取扱者 乙種6類	危険物取扱者 丙種	ボイラー取扱技能者	ガス溶接技能者	フォークリフト運転者	電気工事士第1種	電気工事士第2種	電気主任技術者第2種	電気主任技術者第3種	陸上特殊無線技士第3級	海上特殊無線技士第2級	技能士2級(普通旋盤)	技能士3級(普通旋盤)	技能士3級(シーケンス制御)	計算技術検定4級	計算技術検定3級	情報技術検定2級	情報技術検定3級	機械製図検定	基礎製図検定	パソコン利用検定3級	パソコン利用検定2級
受検人数	1	4	4	3	154	5	9	88	2	43	14	36	138	1	2	104	104	1	1	9	40	182	142	37	103	104	128	2
合格人数	1	3	4	4	3	20	6	41	2	41	14	12	75			1	104			8	37	141	106	24	34	49	63	1

令和6年度 受賞者

〈各種教育団体表彰〉										〈消防試験研究センター滋賀県支部長表彰〉									
産業教育振興中央会表彰										化学工業科A組 東浦 亘									
日本工業化学教育研究会表彰										化学工業科A組 谷口 天翔									
近畿地区機械教育研究会表彰										危険物取扱者甲種取得 化学工業科A組 東浦 亘									
近畿地区電気教育研究会表彰										危険物取扱者乙種全類(1類~6類)取得 機械科C組 新谷 昂良									
近畿工業化学教育研究会表彰										危険物取扱者乙種全類(1類~6類)取得 電気科C組 上仲 悠生									
〈全国工業高等学校長協会ジュニアマイスター顕彰表彰〉										〈三杉会表彰〉									
特別表彰										全国高等学校総合体育大会自転車競技出場 機械科C組 藤井琥太郎									
※ ゴールド以上で特に顕著な成果がある者										全国高等学校総合体育大会自転車競技出場 電気科C組 西園 元輝									
ゴールド(45点以上)										全国高等学校選抜自転車競技大会出場 化学工業科A組 小島多巧己									
ゴールド(45点以上)																			

令和6年度 進路・求人状況

I. 進路状況

(県内・県外は就業場所による集計)

[単位:人、():女子内数]

科	総数	就 職					進 学					無業・その他
		県内	県外	公務	自己	計	四大	短大	専門職大	専門学校	計	
機 械	101 (0)	54 (0)	9 (0)	0 (0)	0 (0)	63 (0)	19 (0)	2 (0)	0 (0)	15 (0)	36 (0)	2 (0)
電 気	109 (1)	57 (1)	14 (0)	4 (0)	0 (0)	75 (1)	19 (0)	0 (0)	0 (0)	13 (0)	32 (0)	2 (0)
化学工業	29 (5)	11 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	11 (2)	7 (1)	0 (0)	0 (0)	9 (1)	16 (2)	2 (1)
合 計	239 (6)	122 (2)	23 (0)	4 (0)	0 (0)	149 (2)	45 (1)	2 (0)	0 (0)	37 (1)	88 (2)	6 (1)
前年合計	209 (7)	95 (2)	21 (0)	2 (0)	2 (0)	121 (2)	57 (2)	0	0	40 (3)	98 (5)	7 (0)

就職内定率 (内定者数/学校紹介就職希望者数) = 145 / 145 = 100% (2月末現在)

II. 求人状況

(県内・県外は事業所所在地による集計)

地域	企業数	件数	求人数
県 内	373	568	708
県 外	220	185	327
合 計	593	753	1,035

求人倍率
(求人数/学校紹介就職希望者数) = 1,035 / 145 = 7.14倍

令和6年度 部活動 近畿大会以上の主な出場大会 (激励金申請分)

ボート部 近畿高等学校ローイング選手権大会 国体近畿ブロック大会ローイング競技 全国高等学校総合体育大会ローイング競技大会 国民スポーツ大会ローイング競技 全国高等学校選抜ローイング大会近畿地区予選会 全国高等学校選抜ローイング大会	山岳部 国民スポーツ大会近畿ブロック大会スポーツクライミング競技 近畿高等学校スポーツクライミング大会 全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会
自転車競技部 近畿高等学校自転車競技大会 全日本自転車競技選手権大会ジュニアロードレース 全国高等学校総合体育大会自転車競技大会トラックの部 全国高等学校総合体育大会自転車競技大会ロードの部 ジュニアオリンピックカップ自転車競技大会 近畿高等学校自転車競技専門部新人大会 全国高等学校選抜自転車競技大会	ソフトテニス部 近畿高等学校ソフトテニス選手権大会
水泳部 近畿高等学校選手権水泳競技大会 近畿高等学校新人水泳競技大会	弓道部 近畿高等学校弓道選抜大会
	定時制軟式野球部 全国高等学校定時制通信制軟式野球大会東近畿地区ブロック大会 近畿高等学校定時制野球大会
	定時制バドミントン部 全国高等学校定時制通信制体育大会バドミントン大会 近畿高等学校定時制通信制課程体育大会バドミントン競技

令和7年4月現在

[illegible]

令和6年度事業報告

令和6年

6月1日(土)	会報第66号発行	会員24,781名に発送
7月6日(土)	三杉会 定時理事会	三杉会館にて
11月12日(火)	ホームカミングデー	学校・文化祭行事
11月13日(水)	ホームカミングデー	学校・文化祭行事
11月14日(木)	ホームカミングデー	学校・文化祭行事
11月17日(日)	三杉会栗東支部総会	事務局より2名出席

令和7年

2月25日(火)	役員会	
2月28日(金)	三杉賞の表彰	三年間において顕著な成績と活躍をした生徒の表彰2名
3月1日(土)	卒業式(卒業生 三杉会入会)	卒業生247名(機械科101名・電気科109名・化学工業科29名・定時制8名)
3月29日(土)	会計監査	三杉会館にて実施
随 時	近畿・全国大会出場生徒激励	大会出場時に激励
随 時	卒業生(同窓会・支部)来校	
随 時	卒業記念品準備	卒業証書ブック
随 時	三杉賞準備	賞状、記念品、賞状筒
随 時	役員会	
随 時	事務局会議	
随 時	会報発行準備	
随 時	寄贈品の整理、保存	

令和7年度事業計画（案）

令和7年

6月上旬	会報第67号発行	
6月中旬	役員会	三杉会館にて開催予定
7月5日(土)	三杉会 定時理事会	三杉会館にて開催予定
11月中旬	ホームカミングデー	学校文化祭行事開催中に訪問見学

令和8年

2月28日(土)	三杉賞の表彰	三年間において顕著な成績と活躍をした生徒を表彰
3月1日(日)	卒業式(卒業生 三杉会入会)	
3月下旬	会計監査	三杉会館にて開催予定
随 時	事務局会議	
随 時	支部総会	
随 時	卒業生(同窓会・支部)来校	
随 時	近畿・全国大会出場生徒激励	
随 時	卒業記念品準備	卒業証書ブック
随 時	三杉賞準備	賞状、記念品、賞状筒
随 時	会報発行準備	
随 時	寄贈品の整理、保存	
検討中	親睦行事	

令和6年度通常会計決算書

収入の部 (R6.4.1 ~ R7.3.31)

項 目	令和6年度 予 算 (A)	令和6年度 決 算 (B)	比較増減 (B) - (A)	備 考
繰 越 金	2,612,514	2,612,514	0	
会 費	1,612,800	1,612,800	0	7,200円×224人(令和5年度卒業生)
寄 付	1,000,000	1,539,741	539,741	支部・個人寄付
繰 入 金	0	0	0	積立会計より
雑 収	13	5,809	5,796	預金利息等
合 計	5,225,327	5,770,864	545,537	

支出の部

項 目	令和6年度 予 算 (A)	令和6年度 決 算 (B)	比較増減 (B) - (A)	備 考
会 報 費	2,500,000	2,338,610	-161,390	
生徒後援費	550,000	241,590	-308,410	近畿、全国大会出場激励金
新卒記念費	250,000	251,680	1,680	卒業生への記念品
組織充実費	50,000	20,000	-30,000	支部組織充実
会 議 費	50,000	75,146	25,146	
事 務 費	20,000	2,612	-17,388	プリンタインク、コピー用紙
通 信 費	60,000	37,088	-22,912	電話・文書送料
旅 費	10,000	0	-10,000	
慶 弔 費	20,000	0	-20,000	
手 当 費	1,000,000	160,000	-840,000	
引 当 金	50,000	0	-50,000	
繰 出 金	0	0	0	
予 備 費	665,327	0	-665,327	
合 計	5,225,327	3,126,726	-2,098,601	

収入合計5,770,864－支出合計3,126,726＝差引残高2,644,138 差引残高2,644,138を次年度へ繰越します

令和6年度積立会計決算書

収入の部 (R6.4.1 ~ R7.3.31)

項 目	令和 6 年度 予 算 (A)	令和 6 年度 決 算 (B)	比較増減 (B) - (A)	備 考
繰 越 金	10,447,599	10,447,599	0	
繰 入 金	0	0	0	
雑 収 入	0	0	0	
合 計	10,447,599	10,447,599	0	

支出の部

項 目	令和6年度 予 算 (A)	令和6年度 決 算 (B)	比較増減 (B) - (A)	備 考
繰 出 金	0	0	0	
合 計	0	0	0	

収入合計10,447,599-支出0=差引残高10,447,599 差引残高10,447,599を次年度へ繰越します

定期預金証書	3,029,140	滋賀銀行
定額定期貯金証書	5,000,000	ゆうちょ銀行
定額定期貯金証書	500,000	ゆうちょ銀行
総合口座通帳通常貯金	1,918,459	ゆうちょ銀行

監查報告

瀬田工業高等学校同窓会「三杉会」令和6年度通常会計ならびに各種会計について、令和7年3月29日に三杉会館において会計簿ならびに関係書類の提出を求め、監査を行った結果いずれも正確かつ適正に処理されていたことを認めます。

令和7年3月29日 監事 田井中 勲 監事 島田 潤一



事務局からのお願い

平素は、同窓会三杉会の活動にご理解ご協力いただき、また、ご支援を賜り心からお礼申しあげます。事務局への連絡等には、郵便、またはメールをお願いいたします。 E-mail : setatech-h.dousou@pref-shiga.ed.jp

報訃

永く三杉会顧問をしていただいております
阪口伊織様（昭28全機）、野村政夫様（昭29全機）
が、お亡くなりになりました。ご冥福をお祈り
いたします。